

藻岩山中腹のコンクリート土台

国内初リフト跡と確認

札幌・藻岩山の中腹に残るコンクリート土台が国内初のスキーリフト跡だと確認できたとして、市が現地に案内板を設置した。ガイドブックなどで「砲台跡」と紹介されてきたが、藻岩山のスキー史の伝承に取り組み市民団体「藻岩レール会」の原田広記会長(77)の指摘で、リフト跡であることが判明した。案内板設置を市に求めている原田会長は「時間はかかったが、正しい歴史が伝えられるようになり、ほっとしている」と話す。

(水野寛仁)

市、新たに案内板設置

市観光企画課などによると、リフトは進駐軍専用のスキー場開設に伴って整備され、1946年12月に稼働した。全長983メートル、乗り場と降り場の高低差は164メートル。2人が背中合わせに乗るリフトを44機運行。同時期に長野県でも進駐軍の指示でスキー場が整備されたが、藻岩山のリフトが1カ月早く稼働した。進駐軍の大半が札幌を去った後の53年ごろから一般市民にも開放され、58年ごろまで利用されたという。

リフト跡は降り場や原動機の土台などで、中央区の慈啓会病院そばの登山口から約1・3キロ上った登山道脇にある。

原田会長は55年ごろ、このリフト

トを利用した経験があったため、ガイドブックなどの砲台跡という記述に疑問を感じ、2010年に調査を始めた。スキー場の全容が紹介された土木学会誌(47年発行)や当時の従業員の証言から、リフト跡であることを突き止め、12年から市に案内板の設置を働きかけてきた。

市も同様の資料などからリフト跡と確認。国有地のため、国などの許可を得た上で今年15日、整備の経緯を写真や地図とともに紹介する案内板(縦70センチ、横90センチ)を設置した。原田会長は「観光客や市民に広く藻岩山のスキー史を知ってもらうきっかけになれば」と期待している。

「正しい歴史伝えられる」

「正しい歴史伝えられる」



藻岩山中腹に残る国内初のスキーリフト跡に市が設置した案内板。市民の指摘が歴史の発掘につながった